

「ひとりじゃない」

↳ 私が不登校から立ち直れた理由

阿南第二中学校

一年

宮本 みやもと

結姫菜 ゆきな

(敬称略)

私は小学校五年生のときに、不登校になりました。自分でも何で不登校になったかわかりません。

学校に行かなかった次の日に、年下の女の子が家に来てくれました。

「何で学校来れなかったの？」

そのときは私が、

「家で一人でいたかったから。自分でもわからない。」

と言ったら、その子は、

「来れるときでいいから来てね。」

と言ってくれました。そのとき、私はとてもうれしい気持ちになったのを覚えています。その子は毎日家にきてくれました。そのおかげもあり、3ヶ月したら、私は学校に行けるようになりました。その子は家が近くて、いつもいろんな遊びや勉強と一緒にしました。習い事は違っていました。私と同じ習い事をすると言いつ、一緒に習い事も行くようになり、これまでより習い事も楽しく感じるようになりました。学年は違うけれど、私が学校に行ったときの昼休みや業間も一緒に遊んだり、家に帰って宿題をしました。学校が楽しく感じたのもその子のおかげです。

また、私は学校にいけない間、ふれあい学級というところに一ヶ月ほど行っていました。そこはいろいろな理由で、学校に行けていない子どもたちの学校のようなところでした。ふれあい学級では、すぐ友だちができ、学校ではできないイベントをすることができました。芋掘りや体育活動、調理など、楽しいことをたくさんさせてもらいました。勉強時間もあり、ALTの先生も来てくれました。一ヶ月だけでしたが、自分にとって、楽しい時間になりました。

それから学校に行き始め、最初は不安でしたが、クラスのみんなが、

「久しぶり！」
と温かく言ってくれたのでうれしかったです。それからだんだん学校に行けるようになり、楽しいイベントやいろいろな体験をみんなとすることができました。

そして最高学年の6年生になり、いろいろな行事や勉強が忙しくなっ

きました。担任の先生が変わり、勉強も今までと少し進め方が違うこともあり、間違ったりすることもありました。みんな協力して乗り越えることができました。一番みんなと協力したと感じたのは運動会です。毎日体育の時間に練習をして、下級生を引っ張ってきました。

私は小学校6年間で、失敗や成功をたくさん経験しましたが、楽しい思い出をつくることができました。

ひとりではここまですることはできなかったと思います。下級生の子、同級生みんなのおかげで、今の私がいると思います。

この経験を生かし、ひとりで頑張るのではなく、みんなと協力しあい、中学校生活を楽しいものにしていきたいです。